

学年ごとに着実に足元を固め 将来の「グローバル人材」を育成

城北中学校・高等学校



今年、創立80周年を迎えた城北中学校・高等学校は、2015年に国際教育委員会を立ち上げた、英語教育に力を入れている男子進学校です。同校では英語の授業も充実させており、国際教育委員会といわば車の両輪として生徒の英語力向上を図っています。同委員会委員長の紫藤潤一先生と、高2の学年主任の大重俊太先生（英語科）に同校の英語教育についてお聞きしました。

学校プロフィール

〒174-8711 東京都板橋区東新町2-28-1
東武東上線「上板橋」駅より徒歩10分
東京メトロ有楽町線・副都心線「小竹向原」駅より徒歩20分
TEL 03-3956-3157 URL www.johoku.ac.jp

高3からは志望進路別の授業も 長文読解力に優れた高入生

——御校では語学研修や留学で生徒を積極的に海外に送り出してきました。そのベースとなる授業はどのように行っているのでしょうか。

大重 まず、高入生の高1は、コミュニケーション英語を週4時間、英語表現を週2時間それぞれ学びます。コミュニケーション英語では文法や英単語、精読、リスニングなどにより、基礎力の充実に努め、英語表現では英作文やエッセイライティングなどによって発信型の力を身に付けます。

高2になると、授業時間数は同じです

が、英語表現の授業は全てネイティブの教員が担当。1クラスを半分に分け、スピーキングやエッセイライティングの力をさらに高めます。ビデオやテレビ番組なども活用し、生の英語に触れてもらうようにしている点が一つの特徴です。

高3は、英語表現は週2時間のままで、コミュニケーション英語は週5時間に増やします。この時間数は高3生全員に共通していますが、例えば私立文系コースである「文I」には「私大英語」という授業をさらに2時間設けるなど、志望進路に応じてきめ細かいカリキュラムを組んでいます。このように、学年ごとに着実に足元を固めてもらう点が本校の英語教育の特色です。

——高1に限って高入生と内進生とで英語の授業時間数が異なるようですね。高入生に対して気を配っていることはありますか。

大重 高入生は高校入試を経験していますから、英語力そのものは一定の水準に達しています。特に、最近の高校入試の傾向を反映し、長文の読解力に優れています。一方で、入試では限られた時間内に文章を読むことを

優先しなければならないせいか、意味を正確に捉えることについてはもう一息という面も見られます。そこで、高入生の高1の授業ではそうした点を補強できるよう配慮しています。高校から入学してついていけるかどうか不安がる方もいるようですが、その心配は無用です。

基本は「基礎を徹底すること」 オンライン授業も効果的に活用

——受験英語という観点からはどんなことを行っていますか。

大重 受験英語に限りませんが、本校の基本的な考え方は「基礎を徹底すること」です。例えば、高1では小テストを小まめに実施し、理解度などをきめ細かくチェック。それをもとに一人一人に合った指導を行い、英語力を着実に底上げしていきます。高2・3になると、職員室に積極的に質問に来よう促します。いわばオーダーメイドで対応するわけです。

先ほど、高2の英語表現でビデオやテレビ番組なども活用していると言いましたが、これは入試対策の一環でもあります。近年、大学入試ではリスニングが重視されてきているため、テレビのニュース番組などで耳を慣らしてもらっているのです。新型コロナウイルス感染症や東京オリンピックなどに関連するニュース



オーストラリア語学研修では現地のハイスクールを訪問することも

を使うと、生徒も食い入るようにモニターを見ています。

——昨年は新型コロナウイルスの感染拡大もあり、各校ともオンライン授業への対応を迫られました。御校ではいかがでしたか。

大重 YouTube授業動画を配信しました。Zoomを活用し、ライブ授業を行ったこともあります。課題もオンラインで配信し、回収しました。

授業の基本はやはり対面だと思っていますが、オンラインにはオンラインの良さがあることに気付けたのは収穫でした。例えば、提出された課題を細かく見られるようになるなど、個別対応がしやすくなったことです。生徒も気軽に送ってくるようになりました。そうしたやりとりを通じて教員と生徒との距離が縮まったようにも思います。

国際教育委員会を中核に さまざまなプログラムを実施

——御校では2015年に国際教育委員会を立ち上げ、語学研修などに積極的に取り組んできました。昨年度は新型コロナの影響で変更を余儀なくされたと思いますが、今年度はどのような対応を予定していますか。

紫藤 国際教育委員会を立ち上げたのは、「グローバル人材」を育成するためです。外向きの考え方をもち、異文化圏の人々とコミュニケーションしつつ、互いに協力しながらさまざまな問題の解決策を見いだせる人、それがグローバル人材だと本校では考えています。生徒には「世界中のどこでも勉強、仕事、生活ができる人、それがグローバル人材だよ」とかみ砕いて話しています。そのためにさまざまな国際教育プログラムを実施してきましたのですが、昨年度は新型コロナにより、

残念ながら多くのプログラムが実施できませんでした。

今年度はできるものもあれば、できないものもあります。例えば、中3と高1が対象で、夏休みに15日間の日程で行われるオーストラリア語学研修は、そもそもオーストラリアが日本からの渡航者を受け入れていないため、今年度も中止しました。昨年度もできなかったのが、今年度は対象を高2まで広げて、ぜひと思っていたのですが、仕方ありません。

毎年高1を対象に募集し、1月から3月にかけて3カ月間、海外に滞在するターム留学は実施できそうです。従来はアメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドから選べたのですが、今年度は唯一日本に門戸を開いているカナダで行います。入国後、ホテルで待機する2週間を利用し、オンライン学習を実施する予定です。



ターム留学からの帰国後には発表会を行います。写真はカナダを選択した生徒の発表会の様子

今年の春休み（3月21日～4月4日）に予定していた、高1・2の英語力上級者・中級者を対象にした新たなプログラム・春季セブ島語学留学も中止しました。しかし、新型コロナの状況をもう少し見極めるため、来春春休みのプログラムはまだ中止していません。小さなチャンスも積極的に捉えていく方針なので、何とか状況が好転してほしいと願っています。

——校内で行う「イングリッシュタワー」というプログラムもありますね。

紫藤 毎学期の期末試験の終了後、3日間にわたって9時から15時50分まで英語だけを使って学校生活を送るというもので、国内留学と銘打っています。この夏は中3と高1を対象に、毎日3時間、オンラインで実施することにしています。生徒を英語力に応じて「スタンダード」と「アドバンスト」に分け、ディスカッションやディベートを中心に少人数制で展開する予定です。



校内で3日間、ひたすら英語漬けになるイングリッシュタワー

将来の自分のために勉強を 生徒思いの教員が手厚くサポート

——受験生に向けてメッセージをお願いします。

大重 受験勉強も佳境を迎えつつあることでしょうか。毎日毎晩、大変でしょうが、使える英語力はいま学んでいることがベースになって身に付きます。例えば、リスニング力がなければ、相手が何を言っているのか分からないし、ライティング力がなくてメールも書けません。文法がめっちゃくちゃな英語では、誰からも認められないでしょう。それだけに、高校入試や大学入試の先の、将来の自分のためにポジティブに勉強してほしいですね。

紫藤 英語から少し離れますが、城北は高校生活が楽しくて仕方がない学校だと思います。今年の高入生を見ると、早くもそう強く感じます。みんな「素の自分」を出しているからでしょう。本校はそんな学校なのです。われわれも含め、教員は生徒思いで、熱心に生徒のサポートを行いますし、英語科教員の質はとても高いと思います。積極的に求めれば、2倍、3倍にして返します。ぜひ、大いに期待して志望してほしいですね。

大重 私たち英語科と国際教育委員会は「城北英語」の車の両輪です。相乗効果で力強くサポートしていきます。皆さんの入学をお待ちしています。